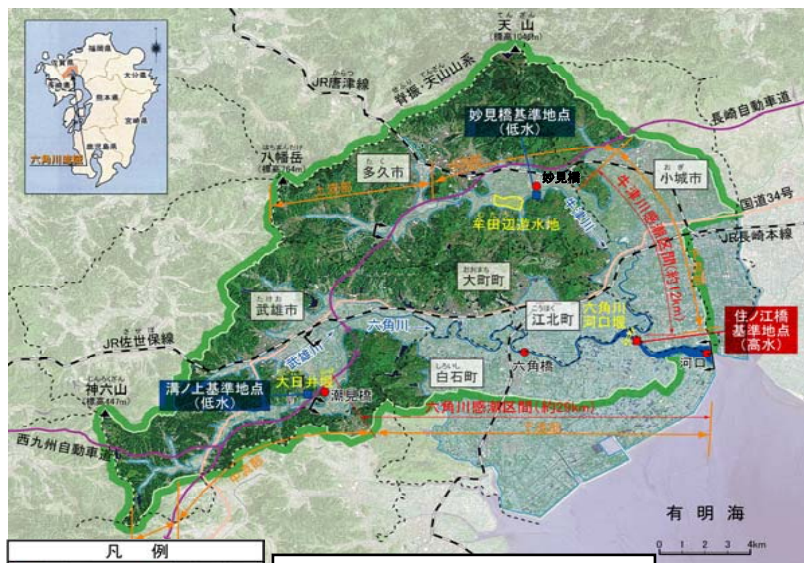


六角川水系河川整備基本方針の概要

流域及び河川の概要

- 有明海の湾奥に位置し、軟弱地盤の低平地を流れ、感潮区間が約29kmまで及び日本有数の緩流蛇行河川
- 下流部は低平地であることに加え、有明海特有の干満差による潮位の影響により、一度氾濫すると湛水が長期化するとともに、内水被害が発生しやすい
- 年平均降水量は約2,000mmで全国平均（約1,700mm）の約1.2倍



凡 例	
流域界	想定氾濫区域
鉄道	市町村界
高速道路	既設遊水池
国道34号	基準地点
直轄管理区間	主要な地点

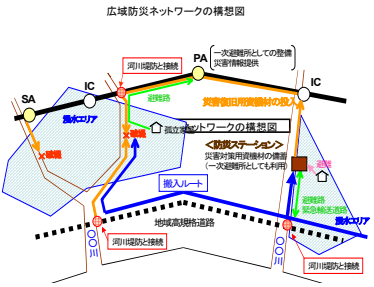
流域及び氾濫域の諸元	
流域面積（集水面積）	: 341km ²
幹川流路延長	: 47km
想定氾濫域内人口	: 約11万人

災害の発生の防止又は軽減

- 既定計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検討、雨量データによる確率からの検討、既往洪水による検討、1/100確率規模モデル降雨波形による検討等により総合的に検討し、河川整備基本方針においても既定計画と同様に、基本高水のピーク流量を基準地点住ノ江橋で2,200m³/sと設定

- 洪水調節については、遊水機能を活かした洪水調節施設による対応を図るとともに、内水ポンプの運転調整による対応を検討。内水氾濫常襲地域であることを踏まえ、ポンプの運転調整の検討に合わせて、家屋の嵩上げ等の内水被害を最小限にとどめるための流域対策を検討。
- 下流部は、低平地が広がり高潮被害を受けやすい地形であるため、防潮機能を有する河口堰の適切な運用を図るとともに、堤防の拡築等の対策を実施する
- 有明粘土層の超軟弱地盤が広く分布しており、地震による堤防の滑り破壊等の施設被災の恐れがあるため、堤防の耐震対策等を実施
- 洪水等による被害を極力抑えるため、防災拠点の整備を図るとともに、河川堤防や高規格道路等をネットワーク化し、復旧資材の運搬路や避難路を確保するための広域防災ネットワークの構築に向けて、関係機関と連携・調整しながら地域一体となって取り組む

【流量配分図】



河川環境の整備と保全

- 六角川中・上流部では、オイカワやカワムツ等が生息・繁殖する瀬・淵、サギ類等の休息場等となる河畔林の保全に努める。
- 牛津川中・上流部では、オイカワ等が生息する瀬・淵、サギ類の休息場等となる河畔林等を、治水面の調和を図りつつ可能な限り保全に努める。
- 六角川下流部及び牛津川下流部では、治水上可能な範囲でヨシ原等の保全に努める。エツ等の有明海特有の魚類やギンボナ等の淡水魚が混在して生息・繁殖する汽水域、ハラグレチゴガニ等が生息する干潟、オオヨシキリの繁殖場等となっているヨシ原、稚魚の育成場となっている江湖（えこ）等の保全に努める。
- 六角川河口部では、ムツゴロウ等が生息し、カモ類等の渡り鳥の中継地・越冬地である干潟等の保全に努める。



河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量の確保に努める。
- 六角川清ノ上地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、かんがい期で0.26m³/s、非かんがい期で0.10m³/sとし、以て流水の適正な管理、円滑な水利用、河川環境の保全等に資するものとする。
- 牛津川妙見橋地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、通年0.41m³/sとし、以て流水の適正な管理、円滑な水利用、河川環境の保全等に資するものとする。